

肺がん検診（地域）

動 向

平成22年度における地域住民対象の巡回肺がん検診の実施市町村は11団体、受診者数7,732名で82名増加した。

なお、一次検診を当協会で実施した後精密検査を地域医師会にて実施している綾瀬市においては、オープンダブルチェックを実施しており、一次検診フィルムの比較読影のチェックのみならず各医師会の精密機関へのデータ提供の利便を図っている。当協会は各医師会の精密検査フィルム読影会に専門医師・放射線技師・担当職員が参加して、フィルムの比較等を行い一次検診の精度管理向上に努めている。

13年度より厚木市医師会においては、受診者の拡大を目的として集団検診から施設医療機関で実施している基本健康診査と肺がん検診の併用実施に移行した。医療機関で直接撮影を実施し一次読影は施設の医師が行い、二次読影を当協会の専門医師が行い読影結果を実施機関にフィードバックしている。22年度の実施医療機関は、68機関・読影数は19,176件21年度より293件の減少となった。

なお、フィルムの精度管理や精検結果把握のためカンファレンス（7月から月1回）・反省会（3月）が実施されている。

平成20年度より厚木市同様に大和市より肺がんフィルム読影依頼があり、平成22年度の実施医療機関は、47機関・3,089名実施した。

方法と結果

間接撮影による胸部単純X線撮影に加えて問診によるハイリスクグループに対する喀痰細胞診である。胸部X線撮影は背腹、側面の二方向で撮影は異時のダブルチェックであり、比較読影は読影医の判断に任せている。現時点で従来から行われている肺がん検診にはDRは導入されていない。

読影による結果判定および指示は地域医師会の肺がん検診判定会（地域によって判定会の呼称は異なる）に戻されて地域の医療機関にて精密検査を受けることになる。細胞診については病理学的な段階で

あるので再検査はない。例年の如くであるが厚木市、綾瀬市においては当協会より医師・放射線技師・業務部職員が判定会に参加しX線フィルムの画質を含めて合同判定を行っている。

受診者総数は表4の如く7,732名で一昨年より僅かではあるが漸増傾向にある。市町村としては11団体で愛川町が2,235名で最も多く二宮町が57名と最も少ない。男女比は1:1.4で女性がやや多いとみるか、男性がやや多いとみるのか、地域の特性は示している。このうちX線検査による要精検者は4.2%ではば妥当な数値である。

精検受診者は76.6%で昨年の61.1%を遥かに超えていて精検受診率としては極めて良好な結果である。一昨年のそれは26.2%と検診の存在すら危ぶまれた数値であったが理由は不明である。表2は読影判定別であるが昨年と異なり“D”“E”ともに2.0%であった。昨年は“E”が“D”を上回っていたが年報でも述べたように“D”の判定部分が“E”に吸収されているためと解釈したが本年は多少厳密にがんらしき陰影（E₁、E₂）を限定したのかも知れない。

昨年にも述べたが、あらゆる陰影はがんの可能性を秘めているのを銘記すべきである。

肺がんは3例で表5の如く60歳の後半から80歳代に亘っている。2例が化学療法となり手術療法は1例である。

喀痰細胞診で1件のE判定があるが依頼検査によるもので喫煙歴50年、15本/日で79歳の男性。咳は出るが血痰はない。細胞診上は扁平上皮癌を強く疑われている症例である。

関係の集計表は90頁に掲載